

CAR No.36

Beyond

スーパーFJ  
アルビレックス・レーシング・チーム  
PRESS RELEASE  
2010/12/20

Albirex-RT

## スーパーFJ もてぎ 日本一決定戦 日本一決定戦初出場そしてファイナル完走

12月15日から12月19日という長期スケジュールで田中選手の初めて走行するツインリンクもてぎでレースウィークは始まった。

12月16日(木) 1本目、午前10:00 朝から雪がちらついていた為に、コースはウェットになっていた。気温4℃ 路温4℃ 湿度71%と寒い中の走行となった。

2本目、午後1:45 天気は曇り、コースは水の量は減ったものの以前としてウェット 気温8℃ 路温6℃ 湿度65%での走行開始となった。

3本目、午後3:15 天気は曇り、コースはウェット 気温8℃ 路温4℃ 湿度70%雨は上がっても冬時期である為、なかなかコースは乾かずにいた。

12月18日(土) 1本目、午前10:15 気温7℃ 路温12℃ 湿度56%での走行開始となった。レースに出走する多くのマシンが走行していたその中で、15日(水)、16日(木)のインプレッションをともに車両のセットを少し変更し、タイヤも程度の良いニューズタイヤへ交換し、周回をしていた。多くのドライバーと走行をする事により、多くの事を見る事で必然とタイムが上がる事を予想していた。これまでセットアップをほとんどせずしていたが、ドライバー自身の走り方などでタイムも上がっていた。

2本目、午前11:45 気温11℃ 路温16℃ 湿度45% 天気は晴れ コースもドライ、気温、路温ともに上昇し、タイムアップを期待していた。他チームは次々とタイムを更新していたが田中選手はタイムアップせずだった。それでも新にチャレンジを繰り返す車両の方向性も見えつつあった。ここでのトップタイムと比較するとほど遠いタイムであった。

3本目、午後2:00 気温12℃ 路温18℃ 湿度31% 天気は晴れ コースはドライ、このセッションは翌日の組み分け通りに2グループに分かれての走行となった。

先ほどのニューズでの走行となった。しかし、そのような状況でもベストを大幅に更新し周回を重ねていた。ピットインを数回はさみつつ走行を繰り返し何かをつかんだ様に見えてきた。翌日のニュータイヤ投入で湊選手を上回るような期待を持たせるセッションとなった。走行ミーティングをしてきたが、車両に大きく求める事は今のところまだ無い。自分自身のマシンの動かし方の方が大きな問題があるように思えると田中選手はコメントしていた。

12月19日(日) 午前8:15 天気は晴れ コースもドライ、気温1℃ 路温1℃ 湿度59%という厳しい条件の中予選はスタートした。トップタイムもコースレコードと同等までいっていたが田中選手はそこまではタイムが伸びずにいた。しかし、タイヤグリップも上がり、タイムもベストを更新していた。20台中、14位でのチェッカーとなった。チームメイトの湊選手にも及ばないものだった。

午前10:20 天気は晴れ、コースはドライ 気温5℃ 路温12℃ 湿度54%でのAグループ第1レグのスタートとなった。14番手スタートであったが、路温や他ドライバーに引っ張られる形であるもののベストは約2秒ほどタイムアップを果たし1台抜き、13位でのチェッカーとなった。レースを走ることによってようやくコースがわかり始めたようだった。タイムも湊選手の予選タイムとほぼ同等のものとなった。トップ10には入れずにファイナル進出をかけて敗者復活戦へと進むこととなった。

午後12:35 天気は晴れ、コースはドライ 気温10℃ 路温13℃ 湿度36%での敗者復活戦のスタートとなった。Aグループ第1レグ後のBグループ第1レグにて湊選手もベストを更新し田中選手と約0.6秒差になっていた。グリッドは5番目からのスタートとなった。スタート後の混乱をすり抜け一時4番手を走行してはいましたが、オーバーテイクを組み換えされ6番手でのチェッカーとなった。レースペースは良くはなかったがここでトップ10入りをしなければファイナルも進出できずにレースが終わってしまう為、本人も手堅く走行していたと思われる。チェッカー後ピットの湊選手のクラッシュ車両が運び込まれたが、それに動じずにファイナルのグリッドへ並んでもらいたいと思っていた。

午後2:49 天気は以前として晴れ、コースもドライ 気温11℃ 路温14℃ 湿度35%の中、S-FJ日本一決定戦ファイナルレースがもてぎで行われた。グリッドは26番スタートとなった。そしてオープニングラップでオーバーラン、接触等でのパーツの飛散等があり危険と判断され2LAP目にセーフティカーとなった。さすが日本一決定戦レースは荒れるとお思いました。そのオープニングラップの混乱をすり抜け15番手まで浮上していました。2LAPセーフティが入り再スタートを切った。タイムも徐々に上がっていったが、1台また1台とオーバーテイクを許し17位のチェッカーとなった。レース中に本人のベストを更に更新し今回の湊選手のベストも上回る健闘を見せた。日本一決定戦に初出場そしてファイナル完走と上出来と思った。田中選手自身はまだ走行に関して試したい事が山のようにあるようで走り足りないコメントをしてはいましたが、これにて2010年のレーススケジュールは全て終了となりました。

2011年もフル参戦できるように頑張ってもらいたいものです。

Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計  
埼玉・川口  
http://www.tkcncf.com/sds

P PLUS

Moty's  
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

SPN  
SPEED PARK NIGATA